

今週のメニュー

■トピックス

◇インドでの塩ビ管紹介 –Vinyl India-2013に参加–

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

■随想

◇ベナン共和国旅行記（2）–マルシェ（市場）–

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇インドでの塩ビ管紹介 –Vinyl India-2013に参加–

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

インドの化学品および石油化学品製造社協会(CPMA)が主催する第3回 Vinyl India (3rd International PVC & Chlor-Alkali Conference) が、今年もインドのムンバイで開催されました。これまで塩ビ工業・環境協会(VEC)がCPMAから講演依頼を受け、会議に参加してきましたが、今回の依頼テーマは「塩ビ管について」であったことから、VECからの要請もあり塩化ビニル管・継手協会が日本の塩ビ管・継手の市場の動向を紹介してきました。



Vinyl India-2013 会議のひとこま

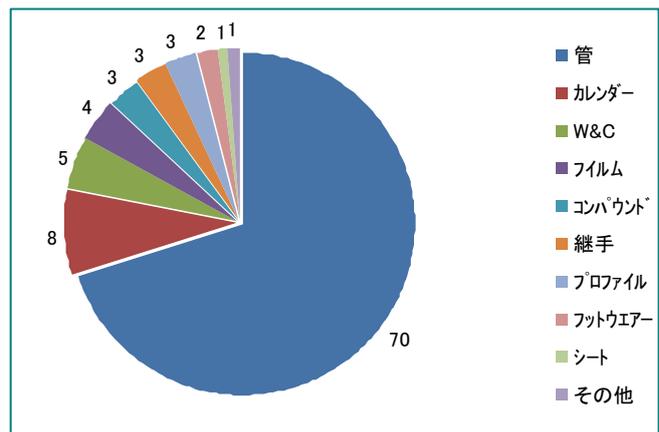
インドが初めての筆者にとっては、外気温が30℃を超える空港に降り立ったときには、思わず夏を感じてしまいました。さらに、ホテルまでの道のりに驚かされました。車線も引いていない道路に3輪の軽自動車(ホロ付き)、バイクあり、割り込み自由・クラクションが鳴り続け、道路を横切る人多々あり、そんな無法地帯のような道路を運転手の巧みなハンドルさばきで無事ホテルに届けてもらったときには安堵感を感じたほどです。

さて、会議は、インドの西海岸にあるインド第二の都市ムンバイ(旧ボンベイ)で4月11日・12日の2日間にわたり開催されました。会議の主旨はインドの化学業界が、PVCの国内・世界の情報を国内の関連業界・企業等に生の声で伝えることであり、参加者は欧州・中国等海外含め600名を越える程の盛況なものでした。主催者側からの要請に対し、インドでの塩ビ管の市場・普及状況、そして特に興味ある製品・技術等についての事前情報がなく、取りあえず日本の塩ビ管・継手の市場の動向について紹介しました。



プレゼンテーション

紹介した項目は「種類及び用途」「市場の取り巻く環境」「注目すべき動向及び対応」「リサイクル事業」及び「普及に向けた連携」についてです。事情として「巨大地震の頻発とインフラの老朽化が課題である」ことより、「耐震化に向けた対応と長期使用品評価等による耐久性確認」に注力していることを紹介すると共に、日本では塩ビ管は半世紀以上の歴史と共にノウハウがあり、普及に向けた連携として特に重要なのは、「製品単体の供給」だけでなく、「信頼性ある管路システム」であることを強調しました。



インドの分野別塩ビ消費比率

インドのPVCの消費量は2010年実績で200万トン強と多く、また用途では70%が塩ビ管と高い(世界の水準:43%程度)こともあってか、コーヒーブレークの間にも「塩ビ管は日本ではポピュラーか?」、「C-PVCについて興味ある」、「製品は別としてシステムについての支援を期待したい」などと積極的に話かけてられました。

インドの更なる発展が予測される経済状況の中で、印象としては、まだインドの一番の関心は「新製品・新技術」のようですが、「耐震性」「耐久性」「リサイクル事業」は、いずれは考えないといけないテーマであることから、今回日本の塩ビ管市場の動向として情報提供できたことに意義があったと考えています。また、インドの塩ビ業界の活性は会議中の雰囲気からも感じられましたが、今後、ますます目が離せない状況が続くものと思われまます。

■ 随想

◇ベナン共和国旅行記(2)ーマルシェ(市場)ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

地元の人にマルシェに行くと話したら、「買い物袋と、買物に必要なだけのお金以外は持って行ってはダメ」と言われました。スリや引ったくり事件が少なく、ベナンは比較的治安がいい国だと聞いていましたが、マルシェはそこまでひどいのかなと、手ぶらで出かけてみました。

ひと一人がやっとすり抜けることができるかどうかという狭い通路の両側に、ありとあらゆるものが積まれて売られています。商品の雪崩が起きたら、遭難事故になり、日本ならレスキュー隊が来るような状態です。

人とすれ違う時は完全に体が密着状態。これではスリの被害に合わない方がおかしいと納得していたら、それだけではありませんでした。

どのお店も売り込みに必死。

言葉が通じなくても、買い物客が欲していなくても、売った者勝ち。もの凄い売り込み合戦となり、うかうかしているといつの間には商品を握られ、お店の人がにっこり笑っ

て「〇〇フランだよ」と手を出してきます。この時、うっかり断ろうものなら、大声で「この外国人、買ったものをいらないうて言うんだよ。ひどい人だよ」と罵られます (*_*)

気の弱い人なら、買わざるを得ないでしょうねえ。これでは買物袋と必要最小限のお金しか持ってこれないわけです。

とは言っても、食材は新鮮で豊富。海沿いということもあり、小エビから大きな伊勢海老（ロブスターではなく、本物の伊勢海老でした）まで、日本の価格と比べると、ウソのような低価格で売られています。

こちらにお住いの日本人の方によると、朝方、買物に行くと本当に新鮮な魚介類が入手でき、刺身にしても美味しいとか。但し、日本の醤油が入手できないのが欠点だとか（中国やベトナム製の醤油は入手可能だそうです、味が全く違うとか）。次回、こちらに来るときには、日本の醤油を持ってきてほしいと懇願されました (^_^)

食肉売り場では日本人だとわかったのでしょうか、大きな肉の塊を「NIPPON」「SHIMOFURI」「MATSUSAKA」「SAIKOH」と言いながら差し出されました。

誰がこんな日本語を教えた (-_-;

それに、差し出された肉、豚肉や羊の肉で、牛肉じゃなかったし。。。

農産物や食肉、魚介類などの食品以外のほとんどは輸入品で占められているベナン、アフリカの街でよく見かける地元の商品やお土産屋さんというものが見つかりません。港湾、商業都市のコトヌーに居るからなのかもしれません。

地元の人の生活も輸入品だらけ。

照明器具は省エネが浸透しているのかほとんどが安価な LED 照明。衣類は、縫製はベナンでも行っているようですが、布地は輸入品。食器から洗剤まで、Made in Benin と表示されている商品を見つけられずにいます。これらの商品、当然ですが、ほとんど全てが Made in China。自動車を除き、ベナンは中国製品で占められています。

中国政府による売り込みもすごく、コトヌーの大使館街にある中国大使館兼中国文化センターは規模も大きく（一番大きいのはフランス大使館とフランス文化センター）、中国風の建築が異彩を放っています。



コトヌーにある中国大使館 兼
中国文化センター

バイクも一部、ヤマハなど日本製もありますが（もしかすると、コピー商品かもしれませんが）、よく見かけるのは「Keweseki」のバイク。さすが、日本の川崎重工もアフリカに進出。ではなく「ケワセキ」のバイクでした (-_-;

30年ほど前、アルジェリアで「Inter National」（Inter の表示が米粒のように小さい）のラジオ、「KiCumt」のチョコレート菓子、「Onda」のバイクをよく見かけましたが、いまだにあるんですねえ。

物売りも、お店を持っている人、路上販売する人、その場所もない人は両手に商品を持って行商をしています。40度近い気温の中、黙々と行商をして歩く人たち。その中には小

学生程度の子どもも沢山います。それでも、物乞いをするよりはマシと地元の人はいいます。

道を歩いていると、マンホールに蓋がありません。ぼんやり歩いていると下水に落下します。夜間は道路照明のようなものがほとんどないので、治安以前に、マンホールが怖くて歩けません。

なんで蓋をしないのだろう。ちゃんと蓋があるマンホールもあるのに。ふと気が付きました。マンホールにきちんと蓋があるのは、軍、警察、役所、各国の大使館の周りだけだと。その地域は優遇しているのかと思ったら、大間違いでした。警備の目が届かない地域のマンホールの蓋、鉄くずとして売られてしまったそうです (^_^;

マンホールの蓋より、今日の生活。

ベナンでは、地域にもよるそうですが、大きなお祭りなどの前になるとマンホールに蓋が設置されるそうです。設置をされるとすぐ鉄くずとして売られるそうですが、そのお金がお祭りの費用や地域の人にいつの間にか配られるので、社会保障制度の意味も持っているとか。

マンホールの蓋の生活保護、と言えるのかもしれませんが。

(つづく)

次回は、(3) -病院- です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

縁あってこの春から太極拳を習うことにしました。中国の街中の広場などでよく見るゆっくりした動きの運動（拳法）です。普段机にばかり座って仕事する腰痛持ちにはいいとのこともあり始めましたが、足の動きと手の動きが一体となって一続き 20 分くらいあるのでゆっくりとはしていますが割と汗をかきます。まだ先生や先輩方の動きを見よう見真似で動いているだけですが、普段の動きと違うのでいい運動になります。（ももった）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp